

全鉄連情報

平成20年6月18日刊

〔第64号〕

目次
P 1～2 加盟団体報告
P 2 鉄鋼課連絡会報告
P 2 常任理事会報告
P 2～4 鉄流懇報告

P 4 企業消息
P 4 会員入退会
P 5 業況アンケート結果

全国鉄鋼販売業連合会広報委員会主管

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館6F ☎03-3808-2350 FAX03-3808-2358

加盟団体報告

(平成20年4月22日
～5月31日)

青年部会が本年度初会合

△東北鉄鋼販売業連合会

(齋藤芳郎会長)

4月22日(火)同会青年部会(代表幹事・越後善行氏)は本年度の第1回例会と懇親会をホテル法華クラブ仙台で開催。女性を含む約40名が出席した。越後代表幹事は「今年は勉強会を実現したい。我々流通にとって与信管理が最重要課題であり、興信所の方などを講師に招いて夏頃には開きたい」と会員の利益に結びつく活動を進める方針を述べていた。出席した東北鉄連・齋藤会長は「過去にとらわれず柔軟な発想で仕事に取り組んでほしい。青年部会では日々の仕事がやりやすくなるよう人脈を作ること。それが仕事にプラスとなり、財産になると確信している」と同会の意義を強調した。

カメイ三連覇・ソフトボール大会

24日(土)第29回親睦ソフトボール大会をウエルサンピア宮城泉で開催した。8チームが参加し、決勝は前年優勝のカメイと東北鋼材販売が対戦。女性ピッチャーの力強い投球がさえ、打線が爆発したカメイは3連覇を達成した。当日は好天に恵まれ、齋藤会長は「けがに注意して、身の丈にあったプレーを心がけながら1日頑張してほしい」と挨拶していた。豪快な空振りや女性の好プレー、劇的なサヨナラホームランあり、念願の初勝利あり、と例年にもまして盛り上がった。

上海鋼鉄服務業協会と交流会

△大阪鉄鋼流通協会

(阪上正章会長・OSA)

5月13日(火)中国の上海鋼鉄服務業協会(SSSTA)が来日し、OSAとの第1回交流会を大阪市西区の鉄鋼会館で開催した。SSSTAから20人、OSAからは10人が出席した。SSSTA視察団(葉黎明団長・同協会秘書長)は12日関西空港に到着後、最初の公式行事である交流会に臨んだ。OSA阪上会長の歓迎挨拶、葉団長の挨拶に続き両団体の活動紹介や意見交換を行った。交流会終了後、阪上会長は「一番の意義はこうした交流の場を持てたこと。将来的にはマーケットが一つになる可能性は十分にある。例えば現状、日中双方国でトラックは走れないが、それができれば2、3日後には現地オントラックということもあり得る。実際の企業間取引においても信頼関係は大切であり、海外団体との交流は大変有意義。両団体で今後ともこうした取り組みを継続していくことで意見が一致した」と話していた。SSSTAは鋼材加工業、コイルセンター、商社、運輸工程設計、金融業など約350社で組織、上海市経済委員会に所属している。

新副会長に田中義昭氏

△東京鉄鋼販売業連合会

(西村達夫会長)

5月14日(水)東京・茅場町「鉄鋼会館」で平成20年度定時総会を開催した。役員改選では村山和雄副会長が退任し、理事となり、新副会長に田中義昭氏が選出された。また、その他の議案はすべて承認された。総会終了後、落語家の三遊亭若圓歌師匠による「笑いは心の栄養素」と題する講演を聴講した。

新副会長に樋口正氏

△静岡県鉄鋼販売業連合会

(近藤安敏会長)

4月14日(水)静岡市内の「グランドホテル中島屋」で定時総会を開催した。支部役員の改選に伴う連合会役員の交代で、新副会長に樋口商店の樋口正氏、新理事に林鉄治商店の林研治氏が就任した。総会開催に当たって近藤会長は「原料高による鉄鋼メーカーの値上げに対し、我々流通は転嫁が追いつかず苦しい状況が続いている。また、昨年の建築基準法改正で建設業界が疲弊し、今後は取引先の信用不安の増大も懸念される。会員のみなさまはマーケットや販売先の状況とともに、グローバルプライスの動きなども見極め、けがなく健全経営のもと元気に1年を過ごしてほしい」と語った。

ミルシート管理の徹底を

△愛知鉄鋼販売業連合会

(林喜裕会長)

16日(金)第36回定時総会を名古屋市内「名古屋マリオットアソシアホテル」で開催。任期満了に伴う役員改選で、林会長以下、全役員の留任を決議した。林会長は「資源価格の高騰で鉄鋼メーカーの値上げが続き、市況も上昇しているが、今後もメーカー値上げはあっても値下げは考えられない状況にある。需要は4～5月と特に静かな状態にあるが、仕入れ値上昇で流通は価格転嫁を進めていくしかない。先の予想は全く不透明だが、我々は固定観念を持たず自然体で、この大きな波を乗り切らなければならない。一方、鉄鋼流通として品質管理も重要だ。ミルシート管理の徹底により、間違いのない製品の提供をお願いしたい」などとあいさつした。

劇的な変化の時代を乗り越えよう

△福岡鉄鋼販売業組合

(鳥山昭理事長)

21日(水)福岡市内「ホテル日航福岡」で第37回定期総会を開催し、組合員43名が出席した。総会の冒頭、鳥山理事長は「劇的な変化の時代がきた。年初以来の製品価格高騰の上げ幅と足の早さに驚いていると思う。スクラップはじめ原料の動向次第では、まだ上がると思う。中長期的には調整局面がくると思うが、この異常な事態の中、新しい時代を捉え、販売のやり方を見直す必要がある。6月には全鉄連総会が開催される。スローガンは『大変革時代を乗り越えよう』会員各社はこのスロ

一ガンの言葉通り、頑張っていこう」と挨拶した。

新理事長に西本維文氏

△広島県鉄鋼特約店 (西本維文理事長)

22日(木)広島厚生年金会館で定時総会を開催。役員改選を行い、新理事長に西本維文氏(誠和商会社長)を選出した。理事長を2期務めた結城恵司氏(結城鋼材社長)は「4年間、垣根を越えた会にとの思いでやってきた。これまで以上に会員相互の親睦・研鑽の場を提供していきたい」と退任の挨拶を述べた。西本新理事長は「結城前理事長には、組合を活性化してもらった。この方向を継承して、垣根のない組合を実践していきたい」と抱負を語っていた。

高橋和典氏が新会長就任

△栃木県鉄友会 (高橋和典会長)

27日(火)宇都宮グランドホテルで通常総会を開催した。その席上、新会長に高橋和典氏(精兎舎社長)を選出した。5期10年間会長を務めた五十嵐章氏(五十嵐商店会長)は、副会長となって引き続き役員には残る約17歳の若返りを図り、若手による新しい感性や手腕に事業運営を託す。

新理事長に福永正明氏

△神鉄連協同組合 (福永正明理事長)

27日(火)横浜市内「ホテルキャメロットジャパン」で平成20年度定時総会を開催し、新理事長に福永正明氏(リョーコー社長)を選出した。新理事長に就任した福永氏は「政治、経済とも大変な環境だが、新しい気持ちで会員の協力をいただき、お互いに手を取り合っただけでいきたいと思います」と述べていた。前理事長の塚越健次氏(リバースチール社長)は「価格の激変など、新しい鉄の時代が始まったと考えさせられた1年だった。値の上げ下げは数千円の議論から今や数万円の話になっている。原点に立ち返って少しでも合理化を進めながら顧客に理解いただけるよう努力が必要」と離任の挨拶を述べていた。

需要低調、鋼材値上がりで厳しい環境

△北九州鉄鋼販売業組合 (小野建理事長)

23日(金)北九州市内「陽来福」にて第36期定時総会を開催した。会員ら16名が出席。役員改選では小野理事長はじめ全役員が留任となったが、事務局はアサヒ鉄鋼販売から小野建に移管された。小野理事長は「建築低調、鋼材値上げと厳しい環境にあるが、この後の懇親会で英気を養って頑張っていこう」と挨拶した。

仕事不足のなか価格上昇に直面

△三重県鉄鋼特約店組合 (大戸純夫理事長)

26日(月)四日市市内「都ホテル」で第35回定時総会を開催。組合員11社が出席した。席上、大戸理事長は「昨年の建築基準法改正で物件発注が停滞する間、鋼材価格の大幅上昇、米国のサブプライムローン問題などが発生した。これにより全体的な景気動向にも不透明

感が強まり、建築需要の低下に拍車を掛けている。流通各社は現在に至っても販売不振の状況にある。今後、仕入量が不足する中で鋼材価格上昇に直面する。需要家の与信問題も懸念される。組合員のみならずにはこの点も踏まえて慎重な商売を心掛けていただきたい」と挨拶を述べた。

価格は上がっても販売量は減少

△福井県鋼材販売事業協同組合 (山本正敏理事長)

29日(木)福井市内「福井厚生年金会館」で平成20年度(第29期)通常総会を開催した。総会終了後には、組合員企業の社員など70余名が出席し懇親会を開催した。その席上、山本理事長は「昨今の原材料価格の高騰を背景とした鋼材価格上昇は困惑を伴うほどの勢いだが、価格は上がっても販売量は減少傾向にある。加えて激しい価格上昇により与信不安も出てくるため鉄鋼流通は厳しい状況に置かれている。我々、地方の鉄鋼流通は目先のことに捕らわれ過ぎないように心掛け、在庫を大事に売っていくことで今年前半を頑張っていこう」と挨拶していた。

関連会議報告

鉄鋼課連絡会

5月22日(木)

会場 鉄鋼会館802号室

出席 松淵・芳澤(経済省) 林・木下(愛知) 中村(昭)(東京) 阪上(大阪) 齋藤(東北) 今井(新潟) 河上(富山) 酒匂・井上(神奈川) 塩尻(一日役員・岡山)

*会議に先立ち芳澤美登里氏(鉄鋼課新任担当官) 塩尻勝康氏(一日役員・岡山・光陽商会) 井上孝一氏(次回より常任理事として出席、神奈川・井上鋼材) 以上3氏の紹介があった。

●全鉄連調べによる3地区12品種18サイズの平均市況は122,700円前月比+5,200円、前年同月比+35,400円。鉄鋼課より「平成19年度素形材関連取引実態調査(下請取引ガイドラインフォローアップ調査)結果について」とする資料の説明があった。

常任理事会

●富山総会の概要について事務局より報告があり、当日の円滑な運営を申し合わせた。

●鉄鋼営業中堅社員研修講座(本年度で5回目)の実施を決定。開催地は従来通り東京となった。

第400回鉄流懇概要

仮需と価格高騰で荷動き落ち込む

●東鉄連からの概況報告(中村)

△鉄筋…5月20日の東京製鉄値上げ発表で市況はもう一段高い価格帯に移行していきだろう。スクラップは相変わらず強気。先々、スクラップが下がることがあったとしても、現状の電炉の採算状況からして、製品の下げはない。

△平鋼…メーカー値上げにより、2～3月に仮需がでるだけ出て、4月は小口中心、5月になっても実需はほとんどなく、予想以上に悪い。これだけ荷動きが悪いと不安感が高まり、転嫁が思うように進まない。

△形鋼概況…4月は前月比で在庫増、在庫横ばい。5月は4月より落ちている。コラム、軽量製品はメーカー値上げを背景に価格上昇となっているが、荷動きそのものはよくない。

△H形鋼…価格がここまで上がってくると、メーカーよっての価格差が出ている。流通にとっては仕事が減っていることもあり、難しい状況である。ただ、在庫が少ないので、ユーザーは材料確保に不安を感じている。

△一般形鋼…在庫は少ない。引受が厳しい。契約残のあるところはさらに絞られている。メーカーによって価格差があり、先々の動向が見通せない。

△C形鋼…5月に入り、我々の予想以上に需要が落ち込んでいる状況となっている。コイル価格が上がっていることもあって、今後、メーカーは更に値上げを指向していくだろう。

△広幅製品…デッキはさほど大きい変化はない。流通にとっては値上げの転嫁が課題となる。

△コラム…値上げの転嫁は案外とスムーズにいくと思われる。

△薄板概況…5月連休明けから仕事がなくなっている。自動車、電機など大手ユーザー向けはそれなりに需要はあるだろうが、店売りを中心にしているところは需要がない。

△冷延…市中在庫は過少状態。歯抜けどころか厚手のサイズはまったく拾えない。ここにきて様々な面で格差ははっきりしてきた。

△表面処理…3月までは仮需があったが、4月に入り一段落。通常の70%程度の動きとなっている。メーカーからの入荷は滞っている。ミルシートの問題が浮上し、ばら売りでも付けてほしいとの要望が増えている。

△厚板耳付き、切板母材…4月部会調査では販売増加、在庫も増加だった。2、3月の勢いはない。足元は非常に荷動き悪く、価格だけが一人歩きしている。

△中板・ホットコイル…4月からの荷動きが悪く、5月も引きずっている。メーカーはさらなる値上げを俎上に乗せている。建築は停滞気味。スクラップの騰勢は収まりそうにない。

△鋼管概況…仮需一服し、4月に入り10～20%減少している。需要は急に増えるわけではなく、むしろこの停滞局面が続いてしまう懸念もある。与信管理が一番の課題である。

△高炉品…今期から来期にかけてメーカーの定修、引き受けカットで玉不足が現実化するにしろ。自動車、建設機械向けが優先されるため、店売りの玉不足はさらに募るだろう。

△熔協…STKは仮需の反動から、年度明け以降悪い。ホットコイルの動向に左右されるので、このように価格が上がると、熔協メーカーは厳しい状況に陥るだろう。流通にとってもこれ以上価格を上げることが2次、3次店を窮地に追い込むことになりはしないかと懸念している。

値上げによって格差さらに拡大

●OSAからの概況報告(阪上)

2、3月の仮需先行手配の出荷が4月にずれ込んでい

る。4月の新規受注は数字としては現れないが、かなりの減少であろう。鉄筋の大きな減少が続いている。5月に入っても落ち込み基調となっている。シャープ新工場の建設がたけなわとなっているが、鉄筋加工はこれが終わると7月から秋口までエアポケットになりそう。鋼管でも向け先でいい悪いがある。H形鋼、一般形鋼の在庫は大幅減少、薄板も減っている。末端小売り、一部ユーザーで値上がりを見越して積んだ在庫が捌けていない大手流通では減っているの、在庫が移動しただけのことかもしれない。H形鋼は0.7ヶ月まで減少し、荷揃えが困難になっている。現状、供給余力がないため入荷が増える見込みはない。5月末在庫は横ばいであろう。この一連の値上げと紐付き・店売りの価格是正を考えてみると、値上げによって格差がますます開いてきたように感じている。さらには店売りから紐付きへのシフトが加速されている。値上がりの中で、収益はいいが先行きの状況を勘案すれば店売り縮小に不安を覚える。順調なメーカー生産に比して店売りが減少している点を指摘したい。

建設不況を懸念

●愛鉄連からの概況報告(木下)

鉄筋出荷が好調。酸洗、チャンネルなどは品薄に変わりはないが、逼迫感は解消の方向。メーカー販価にスライドしたかたちで市況が形成されてる。5月契約でネットにばらつきがあったが、6月には修正されよう。市況は強気で推移している。5月以降、仮需はほぼなくなり実需見合いの荷動きで、低迷している。予想外に閑散としている。東海地区では建設不況ともいえる状況となってきた。これは昨年6月に端を発した確認申請の遅れというより、計画そのものの延期、中止がかなり発生しているためだろう。建設関連業者の倒産もあり、与信不安が一段と高まっている。

荷動き閑散、成約に至らず

●東北からの概況報告(齋藤)

物が動かない。工期と予算の両面で民間案件の中止、延期が多発している。建築費20%アップで中止を決めたところもある。設計2カ月、確認2カ月という期間のなかで、資材を入れて加工していくとなると、鉄骨納期が間に合わない。鉄筋の引き合いが低調である。直送と現物の逆転傾向が現れ、現物価格もさまざまな価格が入り乱れている。

中小ファブは仕事不足

●新潟からの概況報告(今井)

工事の中止、遅れで地場のM、Rグレードのファブは本当に仕事がない。Hグレードのファブは関東物件を受注している。改正建築基準法の影響が尾を引き、建築金物、重設機器の需要はこの上期中には戻らないだろう。石油ストーブの全国シェアは80%以上であるが、石油高騰でダメージを受けた。薄板の値上げは、店売りについては需給タイトが続いていることもあり、徐々に浸透してきているようだ。

価格急騰で市場混乱

●富山からの概況報告(河上)

北陸も例外ではない。一般消費停滞、企業収益はしばみ気味である。鋼材値上げは激しい動きである。4、5

月は大変悪い。社員も暇だと言っている。この値上がりで、物件を発注する施主は戸惑い、ゼネコン、ファブも付いていけない。流通もメーカーから枠がもらえず、納期もわからない。と、いうことでユーザーとの接点を見いだせない。荷動きは20～30%落ち込んでいるだろう。手形ジャンプの話もあり、信用不安は顕在化し、小さな倒産がいくつか発生している。まとまった物件はメーカーとゼネコン、ファブで先行手配され、我々は飛ばされている。

製造業にも陰りが出始める

●神奈川からの概況報告（酒匂）

建設の状況は他地区と同じ。4月に県内で60件の倒産があり、そのうち30%は建設関連であった。大手ディベロッパー、中堅建設が5月に倒産した。都市銀行の融資は堅く、不動産関連についての追加融資は不可能と言われている。この秋以降、建設不況に入るのはないか。昨年夏まで堅調だったマンションは大きな落ち込みを見せている。資材高でコストアップとなり、平均価格が4000万円を超えているため、売れなくなっている。製造業は堅調ではあるが、輸出向けで維持しているのが実態であろう。工作機械は3ヶ月マイナスであり、これは先行きを判断する材料になっている。建設機械の国内向けは不振で、中古もたいして売れていない。造船でもタンカーの引き合いには一時の勢いがなくなり、金融機関は中堅船会社に積極的なファイナンスをしなくなってきた。製造業にも陰りが出ている。

大型鉄骨工事に参入できず

●岡山からの概況報告（塩尻）

岡山でもHグレードのファブは1年分ぐらいの仕事をもっていているが、これに関しては地元業者の出る幕はない。また、J、Rグレードはほとんど仕事をもっていない。少しずつメーカーからの入荷がずれ込んでいる。

身の丈にあった商いに徹する

●林会長（総括）

鋼材価格の上昇で2～4月、会員は高収益となった。利益は出ているものの販売不振なので先行きを不安視している。メーカーは精一杯の対応で、原材料を入手して生産している。しかし、市中での供給薄の状況はしばらく続くだろう。このような時には各社身の丈にあった商いに徹し、リスク管理にはこれまで以上に慎重を期する必要がある。

*この後、商社・メーカーから発言があった。なお、発言内容については別紙資料3-1、3-2を参照。

建設需要一進一退、尾を引く改正法の影響

●経済産業省（松淵課長補佐）

3月の建築着工面積は2月の前年同月比15.3%減に比べ、3.1%厳と回復傾向にあるが、新設住宅戸数で見るとRC、SRCで減少となり、全体では再び悪化傾向が見られる。建築需要については、各種資材高騰なども加わり、5月以降も影響を及ぼすものと考えられるため、引き続き実需を見極めた対応をお願いしたい。浦安鉄鋼団地協同組合の景況調査からも本日お伺いした話と同様に、これまでの売上増は販売価格の上昇によるもので、量的な増大ではなかった。さらにはここにきて一段と荷動きが落ちているので先行きを不安視する結果が発表さ

れている。鋼材需給タイトの状況下、自動車業界との鋼材価格交渉が決着したとの報道もあり、原料高を鋼材価格に反映させる事情について、その他ユーザーに対しても十分な説明が必要であると認識している。

400回を迎えた鉄流懇

●小野会長

市況上昇、仮需一巡などにより需要が低迷している。建設不況との指摘もあったが、先行きは一段と不透明である。DIや建築着工統計を見ても一進一退である。メーカーとしてもあらゆる変化に備えリスク管理していく所存である。海外において需要は引き続き堅調と見ているが、中国では市中在庫がジリジリ増加し、中小ミルが一段と増産して、目が離せない状況である。各国でも物価が急騰して、インフレ抑制のため様々な措置を取り始めていることから、足元の動向をよく注視して慎重な販売姿勢に徹したい。品種によっては市中での品不足を言われているが厚板をはじめ各品種とも、これまで同様できる限りの増産努力をして、供給に努めていきたい。最後に、鉄流懇は今回で400回を迎える。昭和46年11月の第1回開催以来37年間にわたり、多くの先達が支えてきた会である。現在、鉄鋼業を取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、先行きを見通すことが非常に難しくなっているが、これまでも順風であったという訳ではない。このような認識のもと、引き続き鉄流懇のメンバーで鉄鋼業を盛り立てていくという気概をもって活動していきたいので、ご協力をお願いしたい。

会員企業消息（平成20年5月1日～5月31日）

〔所在地・代表者変更など〕

○石井鋼業(株)（東鉄連・亀戸）～新代表者に石井勝也氏が就任した。

○アイキ鉄鋼販売(株)（東鉄連・京橋）～新代表者に中村智美が就任した。

会員入退会（平成20年5月1日～5月31日）

〔入会〕

*該当事項なし

〔退会〕

*該当事項なし

（了）

5月22日締切で、当会役員168名に対し、このアンケートを行ったところ、98名(58.3%)から回答があり、その結果(太枠内)が下記の通りまとまりましたのでご報告いたします。
 *DI 算出方法 = (A×2+B×1-D×1-E×2) ÷ 回答数×100

売上数量前年同月比減へ

【問1】貴社の4月(先月)の総売上金は、前年同月比へ如何でしたか。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	売上	A	B	C	D	E	計	4月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	前年比	10%以上増	5%以上増	ほぼ横ばい	5%以上減	10%以上減		DI
▲24	▲17	▲16	2	▲33	▲57	▲56	▲54	▲74	▲22	36	34	数量	15(15%)	14(14%)	34(35%)	17(17%)	18(19%)	98	▲9
▲4	8	15	19	▲6	▲47	▲24	▲38	▲53	4	4	110	金額	40(41%)	24(25%)	22(22%)	5(5%)	7(7%)	98	87

仮需の反動か全向け先で減少傾向強まる

【問2】貴社営業窓口から見て5月(今月)の販売量は前月比如何ですか。

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	販売量	A	B	C	D	E	計	5月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	前月比	かなり増加	やや増加	ほぼ横ばい	やや減少	かなり減少		DI
▲48	▲34	▲39	▲53	▲58	▲59	▲65	▲66	▲82	▲59	▲34	▲87	公共建設向		1	27	33	20	81	▲89
▲23	▲7	▲3	▲39	▲31	▲64	▲85	▲81	▲84	▲47	▲18	▲67	民間建設向		5	24	41	18	88	▲82
▲26	▲12	▲9	▲45	▲12	▲14	▲11	▲11	▲15	2	2	▲24	自動車向		4	22	19	2	47	▲40
▲23	▲6	±0	▲36	▲14	▲32	▲39	▲44	▲47	▲8	1	▲41	その他需要家向		5	32	34	9	80	▲59
▲61	▲52	▲21	▲35	▲34	▲45	▲43	▲58	▲52	1	3	▲53	仲間取引	1	1	26	42	7	77	▲69
▲36	▲20	▲14	▲41	▲32	▲46	▲53	▲56	▲61	▲25	▲11	▲58	計	1	16	131	169	56	373	▲71

先月同様収益好況だが、先行き不安感募る

【問3】貴社の4月(先月)の企業収益状況は、如何ですか。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	企業	A	B	C	D	E	計	4月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	収益状況	黒字	若干赤字	収支トントン	若干赤字	赤字		DI
64	57	78	79	52	52	59	71	16	38	116	142		56(58%)	30(31%)	9(9%)	1(1%)	1(1%)	97	143

価格急騰で夏場落ち込み予想

【問4】貴社における向う3ヶ月間の需要動向についての予測は如何ですか

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	需要動向	A	B	C	D	E	計	5月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	予測	増加	微増	ほぼ横ばい	微減	減少		DI
26	52	56	52	36	▲4	▲36	▲59	▲29	18	2	▲32		1(1%)	20(20%)	36(37%)	31(32%)	10(10%)	98	▲30

供給減でH形鋼、コラム、厚板品薄感続く

【問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか。

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	需要状況	A	B	C	D	E	計	5月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	見込角虫	非常に不足	やや不足感	ほぼ需均衡	やや過剰気味	非常に過剰		DI
38	15	27	45	34	21	±0	▲10	2	13	41	40	鉄筋用丸鋼	4	19	28	3		54	44
±0	2	±0	7	6	±0	▲2	▲10	▲6	10	19	15	構造用丸鋼	1	11	34	1		47	26
▲7	▲11	▲7	2	±0	▲5	▲14	▲11	▲9	11	31	43	平角鋼	2	9	37	2		50	22
▲23	▲22	▲2	16	19	▲8	▲29	▲35	▲3	37	86	97	H形鋼	10	33	14			57	93
▲15	▲18	▲11	▲2	▲4	▲27	▲31	▲44	▲27	▲4	59	93	コラム	10	21	12			43	95
▲15	▲17	▲18	▲16	▲3	▲13	▲24	▲14	▲15	12	45	40	小形山形鋼	2	15	43	1		61	30
▲15	▲18	▲19	▲20	▲7	▲10	▲24	▲14	▲13	13	49	48	中形山形鋼	3	17	39	2		61	34
▲8	▲21	▲18	▲17	±0	▲8	▲19	▲13	▲10	20	79	78	溝形鋼	5	27	26	1		59	61
▲16	▲17	▲20	▲18	▲19	▲23	▲31	▲33	▲25	▲15	8	12	軽量形鋼C形		5	43	4		52	2
▲11	▲15	▲6	▲5	▲11	▲16	▲18	▲24	▲12	▲14	13	16	軽量形鋼広幅		4	31	2		37	5
▲9	▲22	▲22	▲24	▲22	▲24	▲27	▲30	12	45	91	69	冷延薄板	6	25	17	1		49	73
8	▲10	▲28	▲26	▲18	▲13	▲19	▲23	12	48	87	75	熱延薄板	2	27	28	1		58	52
▲2	▲13	▲14	▲13	▲16	▲24	▲24	▲25	±0	36	82	67	表面処理鋼板	5	21	20	3		49	57
▲23	▲17	▲42	▲45	▲30	▲24	▲24	▲28	39	100	135	98	酸洗鋼板	6	23	22	1		52	65
▲6	▲6	▲26	▲35	▲17	▲6	▲18	▲13	11	69	92	78	中板	4	23	32	2		61	48
18	12	15	20	48	29	38	47	63	90	105	122	厚板	15	32	14			61	102
14	15	29	38	63	50	64	66	83	100	118	120	極厚板	14	16	7	1		38	113
▲2	▲5	▲5	▲7	▲6	▲6	▲14	▲4	▲4	5	42	49	縞板		12	37	2		51	20
▲14	▲16	▲15	▲16	▲16	▲23	▲22	▲29	▲17	▲9	22	26	中径角		7	47			54	13
▲7	▲9	2	▲9	▲9	▲18	▲16	▲18	▲14	▲7	24	28	ガス管・黒	1	7	43	2		53	13
▲8	▲12	▲2	▲10	▲9	▲19	▲18	▲23	▲17	▲6	23	25	構造用鋼管		8	39	1		48	15
▲5	▲10	▲9	▲7	▲1	▲8	▲14	▲14	2	26	61	60	計	90	362	613	30		1095	47

流通問題懇談会 品種別動向について (2008年5月)

発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
発表項目 1. 需給動向 (貴況感)	伊藤忠丸紅鉄鋼 大手組付きは足下堅調だが、店売りは低調。母材コイル不足の為、溶接管のタイト感はあるものの、需要は低迷している。シームレスは機械構造用鋼管に品薄感があるが、配管類はプラント向が依然低調。	岡谷鋼機 3月末の薄板三品在庫は401万トンと前月比7.2万トン減少し概ね適正圏内となった。高炉各社のロットは製造業向けを中心に好調の為、依然タイトな状況であり、酸洗、冷延など一部の品種ではタイト感が非常に強い。足元のマーケットは先高を見越した仮需が一段落し、市中の荷動きには一般感が出ているが、原料炭の高騰などを背景にした高炉メーカーの追加値上げが確定しており、今後その影響から市況は緩伸することが予想される。	J F E 商事 造船、建機は好調に推移。建機は盛上りに欠け、市中の荷動きにも一般感が見られるが、メーカーの値上の影響により市況は上昇基調。	兼松 棒鋼 市況は、スクラップ高を背景に各メーカーの値上げが続いており、上伸基調で推移している。 形鋼 先行手記で足元の引き合いは低調。メーカーのさらなる値上げが予想され市況は強基調。市中在庫は低水準であり、歯抜けサイズが散見される。
2. 需要産業動向	建機・自動車・造船・産業機械分野は需要堅調。改正建築基準法による影響は底を脱しつつあり、関西地区の大型物件もあるものの、全般的には荷動き低調。	自動車などの製造業は依然堅調に推移している。3月の自動車生産台数は110.5万台(前年同月比+2.3%増)となり、輸出(同+12.3%)を中心に好調を維持。07年度合計では1179万台(前年比+2.6%)となり、6年連続の1000万台超え、2年連続で1100万台超えとなった。一方、建築関連では3月の新設住宅着工戸数は前年同月比15.6%減少の8.4万戸と9か月連続減少となり、特にマンションが目立つ。非住宅着工床面積(3月483万㎡)は事務所、店舗、工場、倉庫とも増加したが、前年同月比15.7%増加と9か月ぶりの増加となった。	造船の3月末手持工事量は前月比0.5%増の6,557万G/Tで2ヶ月連続で過去最高記録を更新し、依然好調を継続している。建機は3月の出荷金額ベースで前年同月比66ヶ月連続の増となり、好調を維持し、特に輸出は72ヶ月連続の増を続けている。産機は3月の受注金額ベースで前年同月比3%程度減となった。特に輸出の落ち込みが大きい。一般建築を主体とした市中の荷動きに盛り上りは無いが、原材料価格の高騰を背景としたメーカーの値上分を、荷動きの有無にかかわらず、厚板シャヤーは早急に販価への転嫁を迫られていることから、市況は上伸基調にある。	3月の建築物の着工床面積は、非住宅用(15.6%増)は増加したが、居住用(12.4%減)は減少した為、全体では13,288千㎡、前年同月比3.1%減と減少。建設資材の高騰により新規投資案件にも多大な影響があり、先行きの需要は不透明。
3. 輸出入動向	3月度の鋼管輸出は前月より増加。特に油井管は回復傾向である。鋼管輸入は、シームレス・溶接管ともに減少がここ3ヶ月継続している。	3月の薄板三品入着量は252千トン(品種別では熱延+3千トン、冷延+2千トン、亜鉛メッキ+9千トン)と前月比5.9%(14千トン)増加したものの前年同月比8.1%減となった。	3月の輸入実績は7,500T。前月比微増。岸壁在庫は13,000T(前月比△4,000T)。	輸出 半製品のスラブ、ビレット、製品のH形鋼、山形鋼、異形棒鋼は、韓国、東南アジアを中心に高水準で推移している。 2007年度のビレット輸出量は1144千t前年度比40.5%増。小形棒鋼輸出量は456千tで前年度比1.2%増。3月単月の輸出量は、ビレット175千t、異形棒鋼77千t、H形鋼46千t、山形鋼68千t。 輸入 中国のH形鋼は内需拡大を受けて、日本向け輸出余力が減少。
4. 海外市場動向	UO 大径鋼管は、天然ガスパイプライン案件が多く、中国・中近東向で大型案件が目白押しの為、非常にタイト。油井管も調整期を脱し、需要は増加傾向にある。	世界経済は米国の景気後退懸念が強まると同時に、エネルギー価格高騰を発端としたインフレ懸念がこれまでも高成長を持続してきた新興経済国にも広がりを見せるなど、先行き不透明感が増している。そのような背景の中、足下の薄板需給は先高を見越した仮需も加わり、総じて引き締まりの様相を強めており、鋼板価格は原燃料高の影響もあり続伸している。		中国、インドを中心としたアジア地区と中近東地区の需要は堅調にて、鋼材市況は高値安定。 中国国内の市場動向 3月の粗鋼生産は4487万tと前年同期比11.6%増。建築鋼材価格は4月下旬より値上がりをはじめ上昇率は8~10%。また、オリンピック開催期間の環境保護の必要性から北京周辺のメーカーへの供給量が減少する事となる。上海で行われる市場への供給量が減少する事となる。上海で行われる万国博覧会の為の会場建設が5月から開始され、需要は拡大される。以上のことから市況は今後も上昇すると推測される。
5. トピックス	高炉メーカー殿の6月ロール或いは7月ロールからの再値上が既に発表されており、溶協製品の再値上も確実となった。			スクラップ市況は、連休後落ち着いてはいたが、米屑の値上がり、関東鉄源の入札価格 64850 円 (H2) を受けて、上伸基調で推移。

鉄鋼流通問題懇談会 メーカー発言 (2008年5月)

発表者 発表項目	電炉		高炉	
	ダイワスチール		住友金属工業	
1. 需給動向 (景況感)	①08.1~08.3月のRCの着工面積 08.3月のRCの着工面積 マンシヨンの着工戸数 08.3月	前年比 前年比 前年比	▲1.9% /近畿 ▲3.3% ▲2.6% /近畿 ▲4.0% ▲2.2%、首都圏 ▲1.7% 近畿 ▲3.3% 首都圏 63.1% 近畿 62.7% 全国 ▲5.7% 関東 ▲5% 関西 ▲1.0%	◆海外経済は、欧米の景気停滞感が強まっている ◆個人消費・雇用情勢 → 足踏み 生産活動 → 停滞感 企業収益・景況感 → 弱含み } などから、我が国経済は回復に足踏み状態
2. 需要産業動向	① マンシヨン関係では、土地の値上がりに加え、鋼材等の大幅なコストの大幅な価格もあり、施主による投資見直しが行われている結果、流通が、一旦当該物件の注文明細を入手したもの、キャンセルになった物件の話が出てきている ② 5月の新規商談は、4月よりも、更に低調。今後の、需要減が気になるところ。 ③ スクラップを含めた原料価格の急激な変化を前提に、各電炉ともにゼネコンとの契約期間を圧縮する傾向にある。		◆製造業・・・外需主導で高水準継続 自動車 → 輸出に支えられ2007年度完成車生産は1179万台、6年連続の1000万台超え 造船 → 3月末の手持工事は6557万GTで過去最高を更新中 産機 → 一般機械生産は一進一退の伸び 電機 → 電気機械生産は重電・民生用電子・電子部品が好調を維持し、全体では増加基調 ◆建設業・・・住宅着工の減少幅が拡大するなど低調に推移	
3. 輸出入動向	①08. 3月 ビレット輸出 175,783 トン (前年比 +90%) (内訳 韓国 81,257 トン、台湾 45,480 トン ベトナム 45,801 トン) 異形棒鋼輸出 77,769 トン (前年比 +30.2%) (内訳 韓国 62,969 トン、中国 5,097 トン、アメリカ 5,061 トン)		◆輸出・・・高水準が継続 3月の全鉄鋼輸出はアジア向け中心に増加し、単月として過去最高を更新 1~3月期、年度通期としても過去最高 ◆輸入・・・前年比減少が続いているが、引き続き注視が必要 ◆中国を始めとして鉄鋼生産は増加基調 ◆海外市況は、原材料価格高騰も背景にあって、上昇傾向	
4. 海外市場動向	① 鉄筋市況 韓国 4月末の在庫も減少し、タイト感が出ており、強含みで推移 台湾 ビレットの価格の高騰もあり、市況は、上昇傾向 ② ビレット 台湾向けは、上昇傾向			
5. トピックス	①東京製鐵 スクラップ購入価格 (公表値) 4月22日 岡山 陸 63,000円 宇都宮 63,500円			◆2007年度全国粗鋼生産量 (12152万T) は過去最高 ◆ " 全鉄鋼輸出量 (3845万T) も過去最高